

## GDP 成長は依然堅調

来週の水曜日に発表される第3四半期のGDPは、選挙日まで1週間を切っていますが、米国は依然不況には陥っていません。

確かに金融政策は引き締められていますが、引き締めと景気との間のラグ（時間差）は長く、変化しやすいものです。加えて、巨額の財政赤字が幅広い職業に所得をもたらし続けています。2024会計年度の公式発表が金曜日の午後に行われ（週末直前に悪いニュースを発表するのは政府らしい！）、赤字額は1兆8,320億ドル、GDP比6.4%と推定されました。失業率が平均4.0%以下であるにもかかわらず、2年連続でGDP比6.0%を超える赤字となったのです。平時の低失業率を考えれば前例のない規模のこの赤字は、金融引き締めの影響を一時的に覆い隠しているのかもしれませんが。

一方、ハイテク産業やその他の分野では、イノベーターや起業家が政府の障害を乗り越えて経済を前進させています。最近のGDP成長について、それぞれの要因（政府支出かイノベーションか）がどの程度の功績に値するかを判断するのは難しいですが、過去1年間の雇用創出の約半分は政府とヘルスケアでした。

第3四半期の実質GDPは年率3.0%拡大したと推定され、その大部分は個人消費の伸びによるものです。（この予測はまだ確定したのではなく、金曜日に耐久消費財、来週の火曜日には国際貿易と在庫に関する発表があるため、それを受けて調整される可能性があります。）

**消費:** 自動車販売は低調であったにもかかわらず、個人消費は全体的に拡大し続けています。モノとサービスを合わせた実質個人消費は3.5%増え、実質GDP成長率に2.4ポイント上乗せされたと推定されます。（GDPに占める消費の割合68%掛ける3.5は2.4）

**企業投資:** 企業投資は1.7%増と予想され、知的財産の増加が牽引し、商業建設は若干減少しました。1.7%の成長率は実質GDP成長率を0.2ポイント押し上げます。（GDPに占める企業投資の割合14%掛ける1.7は0.2）

**住宅建設:** 住宅建設は第3四半期に落ち込み、住宅ローン金利上昇の影響が長引いたことに加え、建設に対する地方の障害も足かせとなりました。住宅建設は5.0%のペースで縮小したようで、実質GDP成長率から0.2ポイント差し引くこととなります。（GDPに占める住宅建設の割合4%掛ける-5.0は-0.2）

**政府:** GDPを計算する際には、政府による財・サービスの直接購入のみがカウントされます。（移転支出はカウントされません）第3四半期は1.8%増加したと推定され、GDP成長率に0.3ポイント上乗せされる（GDPに占める政府購入のシェア17%掛ける1.8は0.3）

**貿易:** 第3四半期の貿易赤字は、輸出と輸入が共に増えたものの、輸出の伸びの方が大きかったため、若干縮小したようです。純輸出は実質GDP成長率を0.2ポイント押し上げると予想します。

**在庫:** 第3四半期の在庫積み増しは第2四半期をやや上回り、実質GDP成長率に0.1ポイント上乗せされると予想されます。

これらを合計すると、第3四半期の実質GDP成長率は年率3.0%となります。まだリセッション（景気後退）ではありません。だからといって米国経済が危機を脱したわけではありません。

発表日時 (米国中部時間)	米国経済指標	コンセンサス	ファースト トラスト予測	発表結果	前回
10-23 / 9:00 am	中古住宅販売高 - 9月	3.890 百万	<b>3.840 百万</b>		3.860 百万
10-24 / 7:30 am	新規失業保険申請者数 - 10月19日	242,000	<b>235,000</b>		241,000
9:00 am	新規住宅販売高 - 9月	0.720 百万	<b>0.716 百万</b>		0.716 百万
10-25 / 7:30 am	耐久消費財 - 9月	-1.0%	<b>-5.0%</b>		0.0%
7:30 am	耐久消費財 (除く輸出機器) - 9月	-0.1%	<b>0.0%</b>		+0.5%